

衣料品以外の繊維製品の資源循環について

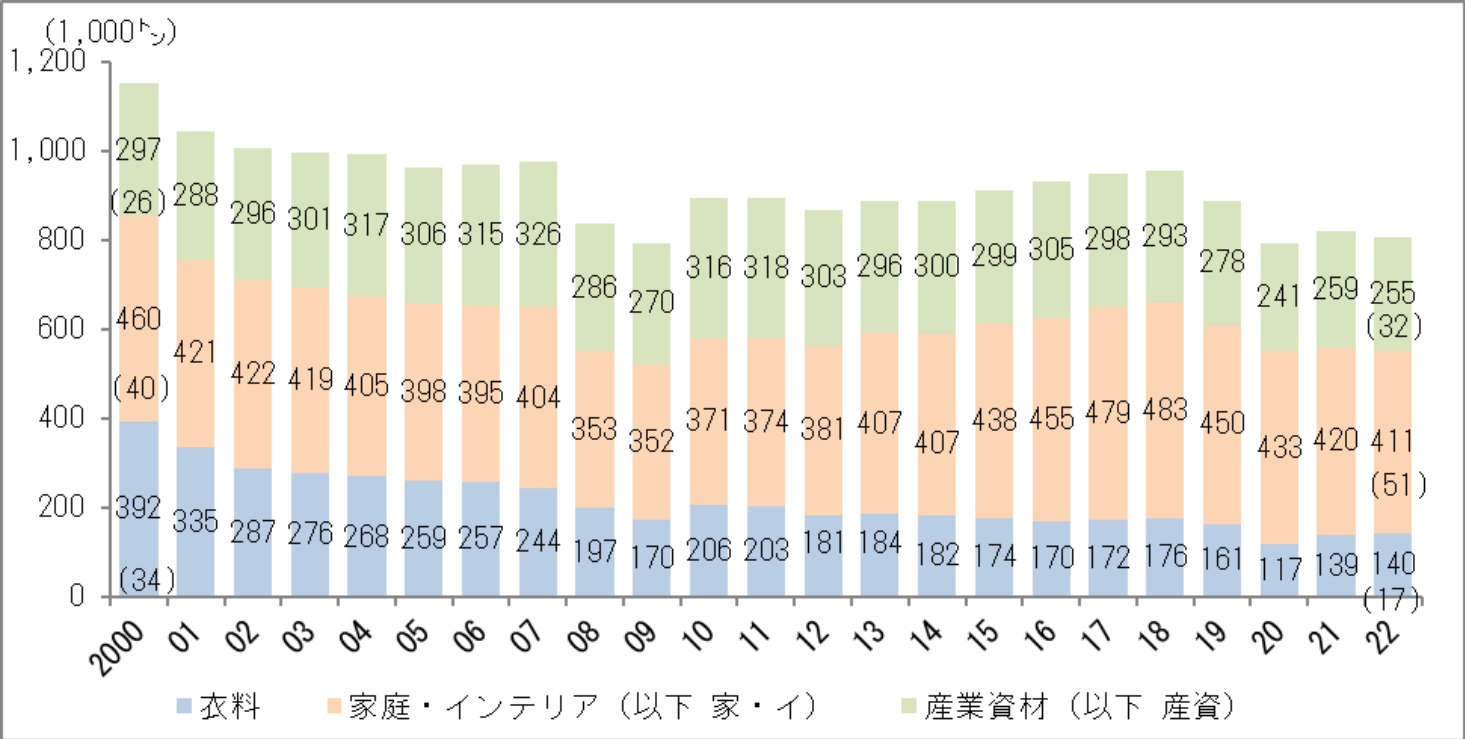
令和5年7月18日

製造産業局 生活製品課

国内における化学繊維の消費量と用途

- 我が国が国内で生産及び輸入する「糸・わた」のうち、化学繊維は約9割を占める最大の繊維種。
その用途別の消費量は、衣料品向けが17%、家庭・インテリア向けが51%、産業資材が32%。
- 家庭・インテリア向けの具体的な用途は、毛布・寝装品・カーテン・カーペット等。産業資材用の具体的な用途は、エアバッグ・シートベルト・ロープ・漁網・フィルター等。

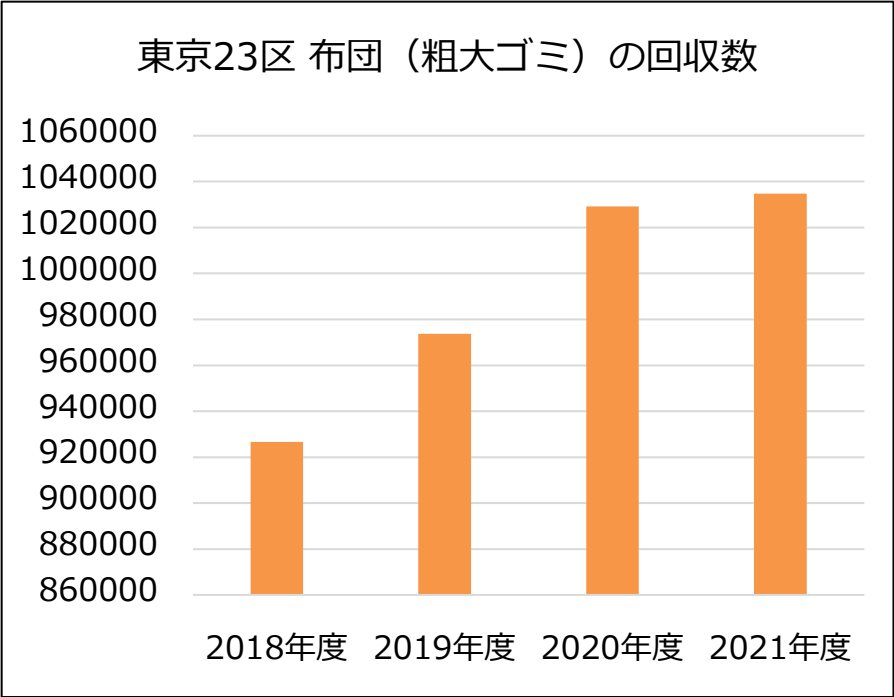
用途別の化学繊維ミル消費量の推移（年ベース）（グラフ中（ ）は構成比率）



出典：日本化学繊維協会

寝具やカーテン等の資源循環に関する課題

- 布団などの寝具・カーテン等は、一部の小売店において店頭回収もされ始めているが、その多くは「粗大ゴミ」として自治体で回収されている。
- 例えば、東京都における粗大ゴミとしての布団は、粗大ゴミの回収品目の中で最多（粗大ゴミ全体の約 1 割）であり、その回収数は2015年度に94万個だったものが、2021年度には103万個に達し、近年増加傾向。
- 粗大ゴミとして処分された布団は、破碎処理後、焼却・埋め立てが行われる。



出典：東京二十三区清掃一部事務組合 清掃事業年報（令和3年度）より作成

寝具（布団）のサステナビリティの取組

- 布団のリユースとして、固くなった布団の中綿をほぐす「打ち直し」という伝統的な手法があるが、現在は「粗大ゴミ」として捨てられてしまうことが多い。
- 一方で、小売店で店頭回収された布団を、専用工場で解体した後、新品の布団に店頭回収された中綿を一部混ぜて販売する取組が始まっている。
- また、布団の中綿は原産地等で差別化が図られているものの、中を容易に見ることはできず、また中綿を見たとしても、判断する手法がないため、産地偽装対策、トレーサビリティの確保が重要。

布団の打ち直し

STEP 1



硬くなった中綿を機械でほぐします。
高温で殺菌・消臭し
ふとん綿に再生します。

STEP 2



職人の手によって、
ふとんの形に綿を整え、
新しい側生地で作って直しします。

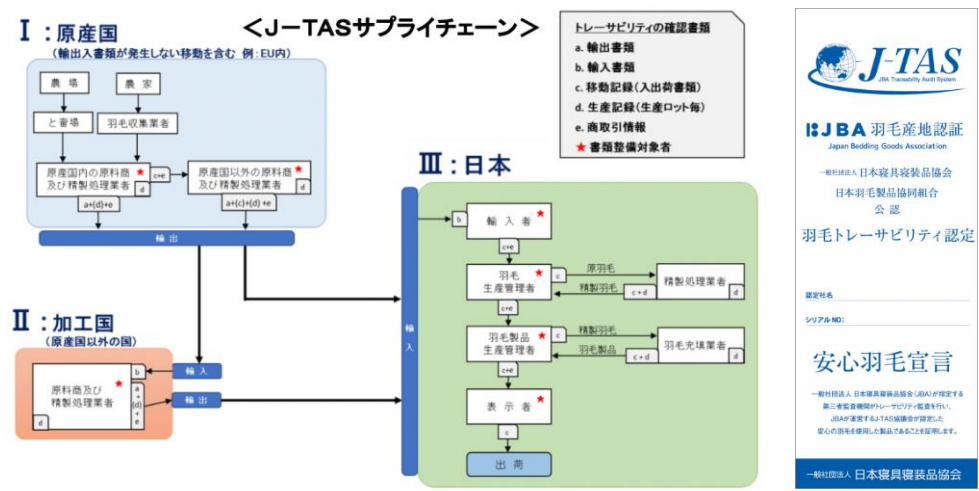
STEP 3



打ち直しすると
綿は2倍ほどに膨らみ、
新品同様に仕上がります。

固くなってしまった布団の中綿をほぐし、熱処理等を行って、本来の風合いを取り戻し、新しい布団に仕立て直す。

羽毛トレーサビリティ認定（J-TAS）

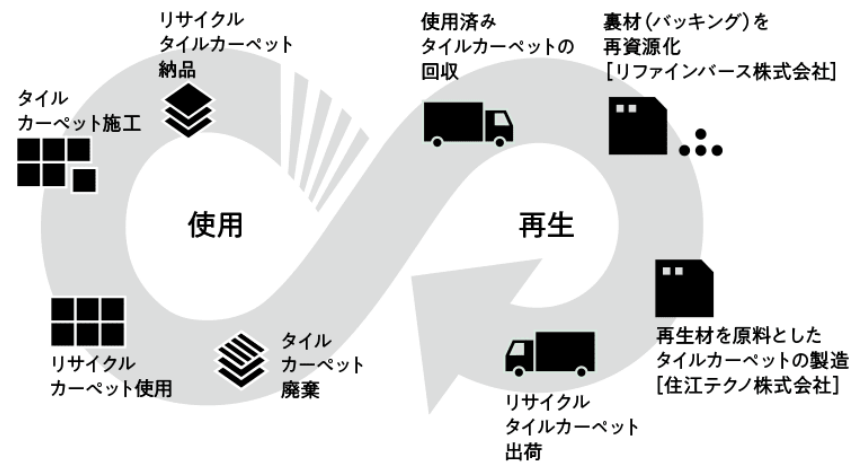


シリアルナンバーをたどれば羽毛の産地から品種・飼育方法をさかのぼってトレースが可能。

カーペットの資源循環に関する課題

- カーペット（ここでは、主にカーペットの約5割を占める「タイルカーペット」を言う）については、特にバックキングと呼ばれる「裏材」のリサイクルが進んでいる（タイルカーペットtoタイルカーペット）。
- タイルカーペットは、業界をあげたりサイクルの取組の結果、グリーン購入法の判断の基準として、リサイクル材の使用率が設定されるなど、「リサイクル資源」として位置づけ。広域認定制度の活用のほか、回収率を向上させるための仕組みが必要ではないか。という声がある。

バックキング部分のみリサイクルする仕組み



使用済みタイルカーペットからバックキングを再資源化し、リサイクルタイルカーペットを製造・販売。

タイルカーペットのサステナビリティの取組

- タイルカーペットは、業界全体での環境対応が進んでおり、グリーン購入法の調達の判断基準にリサイクル材の25%以上の使用に加え、LCAベースでCO2排出量の定量的な環境情報の開示（カーボンフットプリントを算定した製品等）が基準として追加されている。

タイルカーペットのグリーン購入法の調達基準



現行の判断の基準（リサイクル材の使用率25%以上）に加えて、カーボンフットプリントを算定した製品であることを基準として加え、より高い環境性能が求められている。